



毎日の生活の中で大量に出る「ゴミ」。白根衛生センター組合が昨年1年間で処理したゴミの量はカルチャーセンターをいっばいにしても、まだあふれるほどです。また、「ミミ」の中には再び資源として利用できる「資源」も交ざっています。地球的規模での資源保護、環境保護が大きな問題になっている今、「ミミ」は焼却して埋めればよい」という発想は変えなければならなくなっています。

私たち一人ひとりにできることは何か。「ミミ」を減らす工夫とリサイクル(再利用)にスポットを当ててみました。

# 捨てればゴミ、利用すれば資源

## 増え続けるゴミ

増え続けるゴミに、衛生センターの燃却場はバンク寸前。そして、灰にするためにかけられる多額の経費。一人ひとりがゴミ問題を「大切なこと」としてとらえてみませんか。

1人で1日  
890グラムの「ミミ」

人間が生活していく上で、ゴミが出るのは当然のこと。では、あなたの家庭から一日に出されるゴミの量がどのくらいか、ご存じですか? 白根衛生センター組合(以下、衛生センター)のゴミ処理量から計算すると、一日に出される一世帯のゴミは平均三・八キログラム、一人当たり約八百九十グラムです。

衛生センターでは白根市、小須戸町、中之口村、味方村、月湯村から出されるゴミを処理し

ています。昨年一年間に処理したゴミの量は二万トン余り。カルチャーセンターをいっばいにしてはまだ、あふれ出る量です。ゴミ処理量は年々増加し、中でも粗大ゴミは五年前の約二倍になっています。

本市の場合、人口や事業所の増加もゴミの量が増える大きな要因になっていますが、生活様式の変化も見逃せません。例えばジュース類のペットボトル。ガラスビンなら回収して何度も利用できますが、ペットボトルはゴミとして出されるだけ。ほかにも使い捨て商品の増加や過剰包装、OA機器の普及に伴う紙類の使用の増加など、ゴミは増える一方といえます。

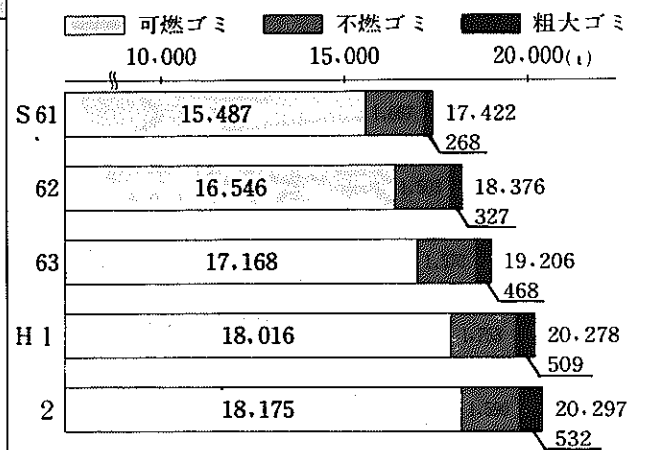
担です。これを賄うのは、もちろん皆さんの税金です。ゴミを燃やして灰にするために、意外に多くの費用がかかっているのです。考えてみれば、もったいない話ではありませんか。

衛生センターでは焼却のための重油を減らすなど、処理経費の節減に努めています。しかし、ゴミの増加の勢いはその努力を上回るといえるのが実情。もし、各家庭の努力でゴミを一割減らすことができれば、単純計算ですが、二千万円のお金の節約になるのです。

立て地は、後三年ほどでいっばいになります。埋め立て地を確保するためには、本市の場合、水田をつぶす以外に方法はありませぬ。ゴミ問題は決して大都市だけの問題ではないのです。ゴミを減らすということは、単に経費の節減という目的だけではありません。資源を保護するという大きな意味があります。

例えば家庭の新聞九カ月分の古紙は立ち木一本分に当たります。ゴミとして出されれば焼却される運命にある古紙も、リサイクル(再利用)すれば立派な資源なのです。また、リサイクルによって、製造過程でのエネルギーが大幅に節約できます。紙だけでなく、アルミ、鉄、ガラス、布に至るまで、リサイクルが可能です。資源として生かすも殺すも、一人ひとりの心掛け次第といえるでしょう。

### ◎過去5年間のゴミ処理量



### ◎1日当たり取り扱ひ量

種別	年度	S61	S62	S63	H1	H2
可燃ゴミ		51.8	55.2	57.8	60.7	61.2
不燃ゴミ		5.6	5.0	5.3	5.9	5.3
粗大ゴミ		0.9	1.1	1.6	1.7	1.8
計		58.3	61.3	64.7	68.3	68.3

単位:t

## 1万4,000円 「これは何のお金?」

家庭のゴミは集積所に出しておけば、収集車が集めていきます。(もちろん決められた日に、決められたゴミを、決められた時間までに出した場合です)一般家庭がゴミの処理のために、直接お金を支払うことはありません。しかし、ゴミ処理は決して「タダ」ではないのです。

平成二年度、ゴミの収集と処理にかかった経費は二億円余り。一世帯当たり約一万四千円の負

## 「ミミ」を減らす 資源の保護

衛生センターに一日に運び込まれる燃えるゴミの量は六十一トン余り。しかし焼却場の処理能力は一日に六十トンです。施設も老朽化しています。そのため、衛生センターでは新しい焼却場の建設を計画しています。

最近ではゴミの多様化によって、焼却すると有毒ガスが発生したり、焼却灰に有害物質を含む物が増えていきます。新しい焼却場では、それらを効果的に処理し、環境を守るための設備も整えることになっています。

さらに、焼却灰の埋め立て地の問題もあります。現在の埋め

### ◎収集・処理費用 (平成2年度)

